

# 「ふるさと訪問」ツアーに参加して

東京新冠会 副会長 栗原 誠

私たちのふるさと新冠は、日高の中ほどにあつて、ハイセイコー、ナリタブライアンなどの名馬の産地として知られ、また、世界中の膨大なレコードを収集した「レコード館」のある町として、最近では道内一のピーマンの産地としても知られています。

今年、会創立30周年を記念して、去る7月17日（木）～20日（日）の日程で、第3回「ふるさと訪問」ツアーを14年振りに実施し、総勢29名でなつかしのふるさとを訪問しました。

当日は、町役場のバスが千歳空港まで出迎えて来て下さり、全員で町役場を表敬訪問、その夜は新冠温泉にて、小竹町長はじめ芳住町議会議員、議員の方々、役場の職員の方たちの温かい歓迎を受け、私たちがとの交流懇親会が盛大に催され、夜遅くまで大いに盛り上がり賑わいました。

翌18日は、全員で町内を見学、旧東川小の廃校舎を利用した「介護老人福祉施設」や、同太陽小の「デイマシオ美術館」を訪れました。



想絵画の鬼才と言われている、ジェラルド・デヤマシオの油彩画の中でも、特に高さ9m、幅27mの実物の油彩画を見る

ことができ、その迫力となんととも言われぬ幻想の世界に引き込まれ感動しました。50年振りに帰郷したという同小の卒業生は、ふるさとの変貌ぶりに複雑な思いを語っていました。見学終了後は自由行動となり、各自それぞれ楽しい時間を過ごすことができましたようです。

最終日、町長や皆様に見送られ、再びバスで空港まで送っていただき、想い出深きふるさと訪問でした。

## 我がふるさとニセコ町へ！

東京ニセコ会（ニセコ町観光大使） 笠原 哲

サッカー仲間3名を案内して、去る6月11日、2泊3日で、札幌・小樽・ニセコ町へ。ニセコ町観光大使として、初仕事でした。勿論、友人3名は初めてのニセコ町訪問です。

6月の北海道、新緑の中山峠の森の深さを眺めながら、喜茂別、真狩と走り、車窓から観る、広大なジャガイモ畑、新緑に映える白樺林の美しさに「凄い・凄い」の連発です。

そしていよいよ、ニセコ町元町の「道の駅・ニセコビュープラザ」で、地元生産品・お土産等を興味深く観察して、ニセコ町役場へ表敬訪問。片山町長さんはじめ、副町長・商工観光課の方々との懇談、町長さんからニセコ町の現状等ご説明頂き、3名も興味深く聞き入り、約30分も、あつという間に過ぎて、

次の予定の「ラジオニセコ」の、夕刻番組に出演致しました。パーソナリティーから、3名に向けてのニセコ町へ初めて来られての印

# 北海道新幹線のまち「北斗市」

東京北斗会 創立20周年

東京北斗会 会長 金谷 忠勝

平成27年度末開業予定の北海道新幹線の新駅名が「新函館北斗」と決定し、いよいよ北海道新幹線開通・運行の発着が当地北斗市から始動されようとしています。

北斗市は函館市に隣接し、南方向に函館港、函館山（臥牛山）を望み、北東には駒ヶ岳を控えた風光明媚な街です。

北斗市出身の東京近郊在住者を中心とした東京北斗会が、今年度で節目の20周年を迎え

象々々きかれて、「許されるなら、静かで、風光明媚なニセコ町で1カ月くらい滞在したいもの」との答えでした。（お連れした甲斐がありました。）

そして、ニセコアンズブリ麓の、温泉ホテルへ向かい、温泉と地元産の新鮮な食材を使った夕食に満足。当然地元「日本酒」も堪能。

翌日は、ニセコ町の観光スポットへ案内して、前日は雲が低くて観ることができなかった「残雪の羊蹄山」の勇姿を観ながら新千歳空港へむけて、ニセコ町を後にしました。

機内での3名の感想は、広大な畑・緑鮮やかな森・食材の新鮮さに、どれもこれも大満足。そして何よりは、迎えていただいた、ニセコ町の方々の温かな、お心遣いに感激と感謝でした。大満足の3日間、「また、あんないいところ！」

事となりました。東京北斗会は、20年前、東京上磯会として発足して17年、そして平成18年の（旧上磯町・旧大野町）の合併で新市「北斗市」の誕生に伴い、平成23年に「東京北斗会」と改称して3年が経ちます。

我がふるさとを少々ご紹介します。明治17年、種田金十郎氏がトックリ窯によるセメント製造を始め、現在の太平洋セメントの前身である北海道セメントを設立、現在も石灰岩の埋蔵量日本一の工場として躍進中です。

大正元年には、川田龍吉男爵（土佐藩が渡島当別「川田農業試験場」を開設、酪農、畑作、林業の技術改良の研究を始め、昭和3年「男爵いも」が誕生しました。また、大野平野では、北海道初の稲作に成功しました。

1896年、今では観光で「北斗の顔」ともいえる渡島当別にトラピスト修道院が開設され、各地から渡来した修道士たちが徐々に入会者を得て原野を耕し、畑を開き、道を造りました。トラピストの伝統である農耕、牧畜酪農はこうして現在に至っています。童謡「赤とんぼ」は、作詞者の三木露風が講師としてトラピストに滞在した間に作られたものです。

一方北斗市にはつらい歴史もあります。昭和29年9月26日、台風15号により青函連絡船「洞爺丸」が遭難、犠牲者1430人の大惨事となりました。七重浜沖、わずか600mの地点でした。

北海道新幹線の開業を機会に、道南各地の観光名所と協調して道内は元より東北・北関東・首都圏を対象に観光、文化、経済の交流の活性化が大いに期待されます。